



精神科病院について考える

精神保健福祉家族会 シュロの会会長 植松和光

皆さんこんにちは、この間、ある方の転院について考えてきました。その当事者は同じ病院への入退院の繰り返しが続く、今も入院をしています。病状は妄想が続く、状態が落ち着く様子はなかなか見られないそうです。患者さんもご家族もとても心配で、このまま、この病院に入院させておいていいのだろうかとか心配になり、私に相談をしてきました。

ご家族との面談で分かったことは、とても古い体質の病院で、すべての決定を医師が行い、看護師もワーカーも、主治医から指示がない限り他のことは一切行わない。ワーカーは当事者や家族との面談もしない。家族が、患者のことが心配なので、患者の状況を聞いたときに「看護師は看護師数が少なく、いちいち患者一人一人のこのなどみていられない」といったそうです。こんな状況だと患者さんも家族も不安になるのは当たり前だと思いました。しかし、親は弱い立場です。いままでずっと我慢してきたのだと思います。辛いですね。

そこでまず考えたのが、転院の問題です。しかし、皆さんも経験があると思いますが転院は簡単ではありません。精神科病院の特有の保守的な自分の病院を守ること、また、転院希望先への遠慮、最も大きいのが、精神科病院

間の地域の線引き、多摩地区（三鷹市、武蔵野市、調布市等）と23区との間の転院は行わないというものがあるんです。私にはとても考えられませんがそのようなことが実在しています。いくら、患者や家族が希望する病院に転院したいとしても殆どがノーです。ある、福祉の関係者がこんなことを話したそうです。「多摩地区にはいい病院なんか一つもないよ。だから、ここの病院が一番よ」と平然と話したそうです。「ずーと入院していなさい」ともです。福祉関係の方もこんな感覚なんですから。

しかし、皆さん普通の病気であつたら、名医のいる病院、腕のいいお医者さんに診てもらいたいために、紹介状を書いてもらい転院しますよね。なんで、精神科病院はこんな当たり前のことができないのでしょうか。

皆さんにもこんな経験はありますよね。

私は、今回のことをうけ、色々考えてしまいました。東京にある精神科112病院のうちほとんどの病院が民間法人であることで、お互いが利益を優先すると考えられます。そのため、精神科病院を患者が自由に選び診察を受けることを阻害しているのではないかと。もし、そうで在るとすれば、患者が自由に病院を選ぶことを要求していかなければなりません。

「家族相談及び当事者家族交流の広場」（仮称）オープンへ！

長いこと、シュロの会では、家族の相談活動の場を国立市内に欲しいなと思っていました。この度(株)円グループの事業所の一つである「オープンダイニングen(えん)」を使用させていただき、円グループとシュロの会で事業を実施することになりました。詳細が決まりましたらまたお知らせします。

【名 称】 「家族相談及び当事者家族交流の広場」（仮称）

【場 所】 東京都国立市東1-17-20 サンライズ2 1ビル203
小沢こころのクリニックとなり

【アクセス】 JR中央線「国立駅」南口より徒歩5分です。



家族学習会報告

2021.10.7みんなねっと東京大会DVD（右下の写真はそのパッケージ／入手希望の方は下記東京つくし会へお問合せください）を視聴しました。話の内容を以前に配布しました資料をさらに以下に要約しました。

みんなねっと東京大会 特別講演 「首都東京の精神医療を考える 都立松沢病院の取り組み」 都立松沢病院名誉院長 齋藤正彦氏

私たち医師は患者の主観的な体験を十分理解できず、患者は自分の体験を客観的に洞察できないので、病識を欠くのはお互いさま、と考えています。

【松沢病院の9年間の改革から】

○民間医療機関の依頼を断らない

民間精神医療機関から入院依頼があった患者はすべて受け入れるようにしました。

民間精神病院は困難事例で苦勞しなくてすむようになり、精神科診療所などの開業医の診療をバックアップ出来ました。

○患者に選ばれる病院になる

この目的のために始めたプロジェクトにより保護室への隔離は24時間未満となり、拘束は最小化されました。2012年拘束率は18.9%が2019年には2.4%に減りました。

そして患者の声を聞くことを大切にしました。もし拘束があったら、医師は患者の傍に座り患者の罵声を聞き続けて、拘束された人の気持ちを受け止めるように指導しています。こうした改革により松沢病院の職員の意識が変わりました。患者は入院治療がトラウマにならないので「次に調子が悪くなったらもっと早く松沢に行こう」と思い強制入院や拘束の必要がなくなります。今後のあり方として、国公立病院には職員を手厚く配置して治療困難な患者を引き受け、民間病院には任意入院だけをお願いすればよいと思います。

【新型コロナウイルスで見てきた人権の脆弱さ】

松沢病院の2020年度のコロナ対応では、クラスターが発生したいくつかの民間精神病院からも感染者を速やかに受け入れました。同時に平時の行政医療も維持しました。

新設の感染症専門病棟に受け入れた感染患者は2020年238人、2021年395人になりました。コロナ禍により、国の制度で精神科病院の職員体制が脆弱なまま放置されていることが明らかになりました。

【松沢病院の評価の向上を目指して】

誰からも支持される病院にするためにみんなで変えていこうと取り組み始めました。

入院依頼があればすぐに引き取る。拘束をしない。合併症でも安心して治療してもらえる。情報発信を新聞、テレビ、講演、論文掲載、出版物発行など活発に行いました。

最後に、私は医師として、医師以外の職種が行う業務から取り残された仕事は、すべて医師が行うべきであると思っています。

2021みんなねっと東京大会DVDの頒布： 1セット（6枚組）3000円

大会基調講演 白石弘己先生（東洋大学名誉教授）

大会特別講演 齋藤正彦先生（都立松沢病院名誉院長）

分科会報告

申し込み 東京つくし会事務局 TEL/FAX 03-3304-1108



令和4年度精神保健福祉家族会シュロの会総会

会員の皆様にはいつもご支援を賜りありがとうございます。

さて、当会の令和4年度総会を次のとおり行いますが、昨年に引き続き、今回もコロナ禍での総会となりますので会員のみで行わせていただきます。

シュロの会会員の皆様にあつては是非ともご出席くださいますようお願いいたします。

《日時》 令和4年4月24日（日）午後1時30分から4時まで

《場所》 くにたち福祉会館 中会議室 国立市富士見台2-38-5

《内容》

(1) 一部総会

令和3年度活動報告及び決算・監査報告

令和4年度活動計画及び予算案、役員の選任

(2) 二部交流会

参加者の皆さんと交流会を行います。



～薬が体に働く仕組みについて～

普段から常に薬を服用している人でも、薬がどのようなルートで体に吸収されて効くのかを考えながら飲んでいる人は少ないと思います。風邪などで発熱した時や、身体の節々が痛んだ時の解熱剤や鎮痛薬を飲んだ時などは、早く効いてほしいと願うと思いますが、何で直ぐに効かないのか疑問にも思っている人も多いと思います。

今回は、特に内服薬が体に作用を現す過程や、薬の有効成分が体から出ていくことについて、簡単ですが触れたいと思います。

内服薬のほとんどは、薬の有効成分が主に小腸で吸収されます。消化管の毛細血管から血液中に移行し、肝臓を通過します。肝臓では酵素の働きで、薬を無害なものに分解する代謝を受けたあと、心臓を経由して血液循環によって作用させたい部位に薬が送られていきます。このような過程を経て薬が効いていくので少し時間がかかるのです。

薬が効果を発揮するためには、有効成分がその作用の対象である器官や組織に一定以上の濃度で分布している必要があるのですが、その目安となるのが血中濃度です。徐々に血中濃度が高まり効果が現れます。

血液循環で何度も肝臓を通過するうちに、薬が代謝され水と一緒に尿や便として体の外に出す排泄が行われ、血中濃度がだんだん下がっていきます。そして薬の効果が利かなくなります。

簡単ですが薬が体に働く仕組みをお話しました。薬を飲んだら、おとなしくして焦らず薬の効果が利くのを待つことにしましょう。（な）

今後の活動予定

○シュロの会ミニ交流会（1回目）家族相談日

《日時》 令和4年5月22日（日） 午後1時30分

《場所》 くにたち福祉会館 3階 講座室

《内容》 自由参加による会員のミニ交流会と併せて家族の方の相談を行います。

講演会のご案内

《日時》 令和4年4月2日（土） 午後1時半～4時

《場所》 幸産業・NSP健幸福祉プラザ 5階視聴覚室

《内容》 「みんなでやろう家族SST」

《講師》 高森信子氏 申込不要

《主催》 サンクラブ多摩 ☎042-371-3380

《日時》 令和4年4月9日（土）

《場所》 新宿区立障害者福祉センター

《内容》 「入院と退院」

《講師》 精神科医・大泉病院社会医療部長 山澤涼子氏

《主催》 新宿フレンズ ☎03-3987-9788

自由 広場



私たち夫婦も年齢を感じるようになり、今一番の悩みは当事者（家族）の将来の生活です。自分達がまだ元気なうちに具体的に準備のための行動を起こさなければと考えています。自由の広場でアドバイスをいただければ幸いです。（し）

会員の皆様からのコメントをお待ちしております。

コメントは、家族会・ミニ交流会時やホームページのお問合せメールでお受けしています。

40文字以内でお願いします。（編集部）

【編集後記】 平和の祭典として冬季オリンピックが開催されました。各国の選手たちの素晴らしい演技や記録に心弾み、日本の選手にもテレビ越しに声援を送ったあの日は何だったのでしょうか。オリンピックが終わった後、ロシアのウクライナへの軍事進行が始まり、テレビには、戦場での負傷者や原子力発電所の攻撃映像などが流れ、とても不安で怖いです。新型コロナウイルス感染症のまん延が続く中、更に戦争が始まり大変な時代となりました。世界の平和を祈るばかりです。そのような中でも季節は確実に変わって桜の季節がやってきました。今年も「新たな生活様式」の中で、コロナに負けず生活していきたいと思います。